



# 日光ウォーキングガイド

たきのおみち

浄光寺(いのくら)は、古くは参道入口の仏塔(1640)に現在境内の菩提寺とされる。本堂は昭和4年であるが、境内を物語る史跡

梵鐘(ぼん  
光寺の石屋根  
手に石積の鐘  
梵鐘で、室町時代  
觀が本宮権現  
名文に古河公  
名乗っているこ  
院権別當とな  
開かせた昌源



路

- 

- This image is a composite of 27 panels, each detailing a specific landmark at Okunoin Cemetery. Each panel includes a title, a brief description, and a photograph of the site. The landmarks are numbered 10 through 27.

  - 10 開山堂 (かいざんどう)**  
弘仁8年(817年)、勝道上人が83歳で亡くなると、弟子たちは仏岩谷の上方で、上人を荼毘にふした。東照宮鎮座の時、墓所をこの地に移し、上人供養の靈廟として、重層宝形造り、朱塗りの堂宇を建て、開山堂と名づけた。
  - 11 勝道上人の墓 (しょうどうしようにんのはか)**  
日光開山の祖、勝道上人は仏岩で荼毘にふされた。当初遺骨は仏岩谷の上方に埋葬された。東照宮鎮座のおり、開山堂が建てられ遺骨も開山堂裏に移された。「勝道上人之塔」と台石に刻まれた五輪塔の墓がある。脇にある別の石柵に囲まれた三基の墓石は、弟子の墓。
  - 12 観音堂(産の宮) (かんのんどう) (さんのみや)**  
開山堂の隣にある観音堂は、安産信仰の社で、別名「香車堂」(きょうしゃどう)とも呼ばれる。将棋の駒の香車が戻らずに直進する駒なので、妊婦がこの駒を借りて帰り、自宅の神棚に祀ると、無事出産できると言う。
  - 13 陰陽石 (おんようせき)**  
香車堂の左手、楕形の石囲みの中にある2個の自然石が、陰陽石と呼ばれ、男性(陽)と女性(陰)を示すものと言われている。男女が和合し、子宝に恵まれるということから、豊穣への祈りも込められるようになる。
  - 14 仏岩 (ほとけいわ)**  
開山堂の裏山、切り立った断崖一帯を仏岩と呼ぶ。仮に似た岩が並んでいたというが、地震で崩れ、今は、開山堂裏のくぼみに、六部天(うち一体は、不動明王)の石仏が並べられている。
  - 15 北野神社 (きたのじんじゃ)**  
庶民信仰の滝尾参道は、開山堂から滝尾神社まで続く。左手鳥居の奥に、梅鉢紋を刻んだ巨岩を背に小祠があり、菅原道真を祀る。寛文元年(1661)筑紫安楽寺の大鳥居信幽が歓請したと、岩に刻まれている。
  - 16 手掛け石 (てがけいし)**  
滝尾参道の途中、右手にある巨岩。北野神社に詣でた後、この石を欠いて持ち帰り、神棚に供えると、字が上達するという信仰があった。田心姫が手を掛けたので手掛け石と呼ばれるが、手を掛けて祈っても良い。
  - 17 大小便きんぜいの碑**  
参道途中、行者堂への分岐点に建つ石の標注。古くはこの辺に、柘御門(楼門)・下乗石・木の鳥居などがあり、滝尾神社の神域に入るため、大小便などの不浄を禁じた碑。庶民にも読めるように「かなまじり」で書かれている。
  - 18 白糸ノ滝 (しらいとのたき)**  
滝尾神社の石段手前、左奥の天狗沢にかかる高さ10mの小滝。文明18年(1486)9月、京都聖護院の門主・道興准后が、滝尾神社参詣のときに書いた「廻国雑記」に出てくるのを始め、古くからその名が知られた名瀑。
  - 19 運試しの鳥居 (うんだめしのとりじや)**  
参道樓門前にある石の鳥居。額束(中央の縦の部分)の真中に穴があり、この穴に小石を三つ投げて、うまく通ると、願い事が叶うと伝えられている。元禄2年(1689)三代將軍家光の遺臣、梶定良の奉納。
  - 20 滝尾神社 (たきのおじんじゃ)**  
弘仁11年(820)弘法大師の創建。現在の建物は、江戸初期のもの。二荒山神社の別宮で、新宮・本宮と共に日光三社権現の一つ。田心姫命(たごりひめのみこと)を祀る。
  - 21 縁結びの笹 (えんむすびのささ)**  
唐門の前、一对の石柵に囲まれた中に「縁結びの笹」がある。縁結びの笹は良縁を祈ると叶うとする縁を結んでくれる。
  - 22 御神木(三本杉) (ごしんばく) (さんぼんすぎ)**  
本殿背後の石柵内にある三本の巨杉。女神の降下があったという神木だが、当初の三本は、元禄12年(1699)、延享4年(1747)、寛延2年(1749)にそれぞれ倒れ、現在の木は二代目。木なので倒れた木は、そのまま横たえである。
  - 23 滝尾稻荷神社 (たきのおいなりじんじゃ)**  
弘仁11年(820)弘法大師が滝尾神社とともに、稻荷神社を創建。昭和41年に台風で流出し、昭和43年に再建された。昔、滝尾上人か朝のお供えを忘ると、稻荷の神が化けて出でて、催促したという伝説が残っている。
  - 24 酒の泉 (さけのいずみ)**  
神社境内天狗沢沿いに、小さな池があり、清水が湧いている。弘法大師がこの水を汲んで、神に捧げたといい、古くから滝尾水「酒の泉」と呼ばれている。醸造家たちで源泉講が結成され、祈醸祭、報醸祭が行われる。
  - 25 子種石 (こだねいし)**  
境内西側を流れる天狗沢を渡ると、石鳥居があり、石柵に囲まれた靈石があります。古くより、この石に子供が授かるように祈願すると、靈験高く、子宝に恵まれ、無事安産するとの信仰がある。
  - 26 行者堂 (ぎょうじゅどう)**  
本尊は奈良時代の山岳呪術者。修験道の祖、役小角(えんのおずぬ)。高下駄を履いた姿の木像は、暗い堂内奥に、従者の前鬼・後鬼とともに安置されている。昔は禪頂行者道の始まり。現在でも女峰山道の出発点。
  - 27 空烟地蔵 (くうえんじぞう)**  
行者堂から巨杉の坂道を下った所、昔地男体山登頂を試みる勝道上人を励ました。年間(1675ごろ)三代將軍家光の忠臣、阿部の墓を大猷院の一画に作った時、阿部家のいて、忠秋の法名をとり、空烟地蔵を建立し

「アクヤスのご案内」



【お問い合わせ・情報サー

一般社団法人 日光市観光

TEI 0288-2

TEL.0288 210000  
FAX 0288 210001

FAX.0288-23-3341  
〒321-1261 栃木県日光市会市

日光市観光協会オフィシャル

日光市観光協会オンラインカルト  
「日光旅ナビ」

<http://www.nikko-kankou.jp>

ページ

# 日光ウォーキングガイドマップ

たきのおのみち

## 滝尾の路

滝尾の路は、神橋を起点として、日光の開山の祖、勝道上人の足跡と、弘法大師空海が開いたと伝えられる滝尾神社を中心に、二社一寺境内の外周をたどるルートです。神橋と滝尾神社を結ぶ滝尾古道の老杉が生い茂る石畳の道は夏でもひんやりと涼しく淨域を醸し出しています。

かんまんのみち

## 憾満の路

憾満の路は、安川町を起点として、大谷川に沿ってさかのぼり、国道120号を下って街に戻るルートです。昔、中禅寺道を歩いた旅人のように、渓流から吹く風に頬をなでられ、歴史の深淵をのぞき込むときめきに心躍らせながら、街道に沿って巡ります。見どころがたくさんあるのでたっぷり時間をとりたい道です。

約5Km

約5Km

## 滝尾の路

